

アフリカ昆虫学 生物多様性とエスノサイエンス

<目次>

地図（アフリカの国と地域

本書に登場するアフリカの地名，行政区名）（佐藤宏明）

まえがき（田付貞洋）

第1部 アフリカ昆虫学とは

1章 生物多様性の観点から見たアフリカ昆虫学の重要性（佐藤宏明）

1. アフリカの昆虫の多様性が研究される理由
2. 本章の構成
3. アフリカの地史・気候・生物相
4. タマオシコガネ亜科の系統地理とアフリカ熱帯区での多様性
5. アフリカにおける分類学的研究の現状—チョウ目ホソガ科の場合
6. アフリカ昆虫学の発展のために

2章 アフリカ昆虫学とエスノサイエンス（藤岡悠一郎）

1. アフリカに暮らす人々と昆虫
2. エスノサイエンス
3. 昆虫と人々との関係に関する研究とエスノサイエンス
4. アフリカ昆虫学へのエスノサイエンス・アプローチ
5. アフリカ昆虫学の未来に向けて

Powered by wordads.co

Seen ad many times

Not relevant

Offensive

Covers content

Broken

REPORT THIS AD

3章 アフリカ昆虫学の歴史と展望（足達太郎）

1. アフリカ昆虫学とは
2. アフリカ昆虫学の範囲と系譜
3. アフリカ昆虫学史
4. アフリカ昆虫学への日本の貢献

5. アフリカ昆虫学の展望

第2部 アフリカで昆虫に出会う

4章 ナミビア農牧社会における昆虫食をめぐるエスノサイエンス (藤岡悠一郎)

1. フィールドに入るまで
2. オバンボの自然資源利用と環境認識
3. 昆虫利用の変化
4. まとめと将来展望

5章 農業と昆虫をめぐるフィールドワークとエスノサイエンス (足達太郎)

1. 初めてのエスノサイエンス体験
2. 中国での農村調査
3. アフリカの農業と昆虫をめぐるフィールドワークとエスノサイエンス
4. アフリカ昆虫学におけるエスノサイエンスの意義

6章 日本とアフリカのヤマトシジミ (岩田大生)

1. ヤマトシジミの斑紋変異
2. ケニアでの調査
3. ケニアのアフリカヤマトシジミ

7章 巨大な大あごをもつ狩りバチが飛ぶカメルーンの森 (坂本洋典)

1. 特異な狩りバチ *Synagris* とカメルーンへの旅
2. ついに見た, *Synagris* の生きる姿
3. カメルーンのさまざまな昆虫たち
4. カメルーンの人々の暮らし

8章 カカトアルキの発見と分類 (東城幸治)

1. カカトアルキの発見
2. 南アフリカでの調査
3. 系統と分類
4. 今後の展望

9章 アリモドキゾウムシを追ってアフリカへ (立田晴記)

1. アリモドキゾウムシとアフリカとの関係
2. いざマダガスカルへ

3. アリモドキゾウムシ研究の意義とアフリカの魅力

第3部 アフリカ昆虫学の展開

10章 ネムリユスリカの驚異的な乾燥耐性とその利用 (奥田 隆)

1. 干からびても死なないネムリユスリカ
2. ネムリユスリカの乾燥耐性機構
3. 新種ネムリユスリカの発見
4. マンダラネムリユスリカの保護活動
5. ネムリユスリカの宇宙環境暴露実験
6. 乾燥保存可能な昆虫培養細胞の構築
7. アフリカ昆虫学の魅力

11章 マダニ寄生バチの生態 (高須啓志)

1. マダニの寄生バチ
2. 国際昆虫生理生態学センターにおけるマダニ寄生バチの研究
3. マダニに対するハチの産卵行動
4. ハチによる寄主の認識
5. マダニ体内での寄生バチの発育
6. 成虫の寿命と生涯産卵数
7. 野外における寄生調査
8. 野外におけるマダニトビコバチの生活史

12章 混作と農業害虫—トウモロコシの害虫ズイムシを例として— (小路晋作)

1. サブサハラアフリカの穀物生産と害虫の問題
2. 生息場所管理技術としての混作
3. 混作が害虫、天敵および作物収量に及ぼす効果
4. プッシュ・プル法
5. 植物を介した混作の直接的作用に関わる要因
6. 天敵を介した混作の間接的作用に関わる要因
7. 混作によるズイムシ防除の発展に向けて

13章 貯穀害虫の生態と管理 (相内大吾)

1. アフリカにおける貯穀害虫とその被害
2. 貯穀害虫の生態
3. 貯穀害虫の防除とトウモロコシの生産性向上
4. アフリカにおける貯穀害虫防除の展望

14章 ヒトマラリア原虫を媒介するハマダラカの生態と蚊帳を使った対策（皆川 昇）

1. アフリカのマラリアとハマダラカ
2. 蚊帳によるマラリア対策
3. 今後の課題と展望

Powered by wordads.co

Seen ad many times

Not relevant

Offensive

Covers content

Broken

REPORT THIS AD

15章 ネットアイシマカの生態と進化（二見恭子）

1. イエローフィーバーモスキート
2. タイヤをめぐる冒険—ケニアでの調査
3. ネットアイシマカの基礎知識
4. 世界を旅するネットアイシマカ
5. アフリカのデング熱とネットアイシマカ集団
6. ネットアイシマカに亜種はあるのか

第4部 アフリカの昆虫学研究機関

16章 国際昆虫生理生態学センター（サンデー・エケシ）

1. はじめに
2. 主要研究課題
3. 実施プロジェクト
4. 人材育成と制度開発（CB&ID）プログラム
5. おわりに

17章 国際熱帯農業研究所（マヌエレ・タモ）

1. IITA の設立と昆虫学部門
2. キャッサバ害虫の生物的防除
3. SP-IPM
4. 生物多様性標本の収集
5. 生物的风险の管理

18章 長崎大学熱帯医学研究所ケニアプロジェクト拠点（二見恭子）

1. ケニアリサーチステーション
2. ケニア拠点の設立と活動
3. フィールド研究拠点と現地での研究
4. ケニア拠点が目指すもの

19章 モーリタニア国立バッタ防除センター（前野ウルド浩太郎）

1. サバクトビバッタとは
2. 国際的な対策
3. 現地での対策

20章 ケニア国立博物館（足達太郎）

1. NMK の沿革
2. リーキー家の人々
3. NMK の研究部門
4. NMK における昆虫学研究
5. 生物多様性条約への対応

補章 アフリカで虫を食べる一栄養源としての昆虫食（八木繁実・岸田袈裟）

引用文献

あとがきにかえて—八木繁実さんのこと（足達太郎・佐藤宏明）

生物分類表（佐藤宏明）

事項索引（佐藤宏明）

生物名索引（佐藤宏明）